

同志社大学

同志社社史資料センター報



第8号
2011年度

1. 巻頭言:2011年度の報告にあたって
2. コラム:会津における地震被害
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会
6. 研究活動
7. 第169回新島襄生誕記念会
8. 新島旧邸
9. 委員会

2011年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 露口卓也

昨年6月NHKは、東日本大震災復興支援のため2013年大河ドラマの主人公に会津出身の山本(新島)八重を取り上げるという制作発表を行なった。その報道は突然のことであつたので少々驚かされたが、われわれは2009年の秋のNeesima Room企画展で「新島八重の生涯」を実施し、当方の資料的整理は行なっていたのであつてはならず、これを機に八重関係資料が発掘されるのではないかと期待したものであつた。もっともそれ以降、一般的には無名に近い八重についての問い合わせが多く寄せられるようになり、現在、大学ではホームページを開設して情報を提供しているが、その他のさまざまなことの対応に追われて今日に至っている。

もちろん多忙になったからといって通常業務が疎かになったわけではない。それは本報告にある通りであり、とりわけ昨年の企画展はより充実した成果を得られたのではないかと思っている。春には結成200周年を経過したアメリカン・ボードを主題として神戸女学院との比較で明治初期のキリスト教学校の特色を、秋には今出川校地発掘調査の成果にもとづく京都を主題として歴史資料館との共催で同志社が京都にあることの認識を新たにした。神戸女学院長森孝一氏の公開講演会は会場のクラーク館チャペルに入りきれないほどの盛況であつたし(聴講をあきらめて帰られた方々には本当に申し訳のないことになり、当方の不手際をお詫び申し上げます)、シンポジウムも明徳館1番教室が満杯になり議論も活発であつた(それぞれの内容は『同志社談叢』第32号に掲載されている)。その他、資料の収集・整理、大学・女子大の学芸員課程の学生の実習、ラーネッド記念図書館や新島会館の展示、新島旧邸(八重の報道以来、来訪者が急増した)、種々の問い合わせの対応など注意深くかついねいに進められたのではないかと思っている。

しかしながら2012、2013年度が当センターにとって特別な年になることはまちがいない。スタッフ全員にとって例年以上の負担を強いることになるであろうが、多忙さに緊張感を高めることによって業務に臨みたいと思っている。皆様のなお一層のご理解とご協力を賜りたく存じます。

会津における地震被害

1611(慶長16)年8月21日辰の刻、会津地方は大地震にみまわれました。局地的に起こったこの地震で、推定マグニチュードは6.9、震度6~7程度の揺れが起こったとされています。この地震で、会津地方では3千人を超す犠牲者が出たほか、倒壊した家屋は民家だけでも2万戸余りとなったようです。山崩れなどの土砂災害によって会津盆地を流れる川が堰き止められ、新たな湖も発生しました。この湖に水没した村々があるほか、当時会津から新潟に抜ける越後街道の一部が、ルートの変更を余儀なくされました。因みに、このときの地震は、会津盆地の西部を南北に走る活断層が震源だったと考えられていますが、周辺の社寺仏閣にも甚大な被害を及ぼしました。現在国の重要文化財に指定されている新宮熊野神社(現在の喜多方市)の「熊野神社拝殿」はこの地震で倒壊したほか、日本三虚空蔵として知られる圓蔵寺(現在の河沼郡柳津町)の舞台も崩落しました。その様子は、1672(寛政12)年に完成した会津の旧聞雑事をまとめた書物には「八月廿一日辰ノ刻大ニ地震会津川ノ下流山崩レテ填塞ク焉故ニ涇水汜濫シ四郡ヲ浸ワント欲(中略)柳津舞台崩レテ川ニ墮チ及塔寺観音堂新宮ノ拝殿モ亦倒」とあります。

そしてこの時の地震で、若松城下の鶴ヶ城も

大変な被害を受けました。1593(文禄2)年に蒲生氏郷の手によって建てられた7層の天守閣が、天守台の石垣が崩れ傾いてしまったと言われます。(現在の若松城跡の中で一番古い石垣は天守台の野面積みのものですが、おそらく慶長期の地震で崩れたというのは天守台のすべての部分ではなく、塩蔵となっている通路の一部分だったと考える向きがあります。)この傾いた天守閣は約30年の間そのままとなり、1639(寛永16)年に加藤明成の改修により現在のよ様な5層の天守閣となりました。この天守閣は幕末期の戊辰戦争の際の激しい砲撃にも耐え抜きましたが、明治7年には破却の対象となり、石垣だけを残し取り壊されました。現在のような姿に復元されたのは昭和40年のことです。

会津地方は自然災害が少ないことが一つの大きな特徴ですが、その会津の地で起きた慶長会津地震からちょうど400年後の2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生しました。400年ぶりに大地震の脅威にさらされた瞬間でした。地震の発生から時間と共に強くなる揺れ、やがて階段の手すりにつかまらないと階段を転げ落ちるのではないかとというほど酷い横揺れに襲われました。天守閣の倒壊を予期させる揺れの中で来場者の避難誘導を終え

外に出て目にしたのは、あちこち無残に亀裂が入った天守閣周辺の漆喰壁でした。幸いなことに、天守閣自体は地中深くからコンクリートの柱で支えられているため一刻を争うような被



『旧事雑考』慶長十六年の記述



亀裂の入った漆喰壁

害は見られませんでした。本丸内のあずまの一本は完全に傾き、いつ倒壊してもおかしくないほどの危険な状態でした。石垣に接する城壁は揺れのために亀裂が走り、折からの強風でその箇所から漆喰壁が剥離していきます。

同じ時刻に、他の地域がどのような災害にみまわれどのような状況に陥っていたかというのは、報道などで日本国内だけでなく世界中の方々が目にしていただけたことでしょう。そして、天災だけでなくその後地震による津波に誘発され引き起こされた人災は御承知のとおりです。

被害が軽く済んだとされる会津地方でさえ、震災以前のようにとは申せないまでも日常生活を送ることが出来るようになるまでは、多少時間を必要としました。会津若松市内の道路はあちこちで陥没や隆起、亀裂が起きました。また、本震後も続く余震に、鶴ヶ城本丸内の石垣の一角は崩落しましたが、修復の目途が立たず現在もそのままになっています。このように、東北地方太平洋沖地震の発生により、多くのことが変貌しました。

一方で、震災以降、新たな人の絆も多く生まれました。国内外の本当に多くの人々が、手を差し伸べてくれ、人と人とのつながりが多いの



現在の天守閣

奇跡を起こしてくれました。

そんな中で、平成23年6月12日に発表された「平成25年の大河ドラマは新島八重が主人公に決定」というニュースは、驚きと共に会津を駆け巡りました。東日本大震災によって受けた被害からの復興支援に、との配慮をいただいた上の決定のようですが、これにより多くの人々の注目が福島県に集まることとなります。現在は福島県内全域がドラマ放送への期待の高まりをみせ、各地で様々な関連企画・イベントの準備が行われています。

会津藩士の娘として生を受け、幕末の戊辰戦争を経験した山本八重が、京都に出て後に同志社大学を設立する新島襄と結婚し「新島八重」となったのは、1876(明治9)年のことでした。86歳(満年齢)で亡くなった八重は、人生の約3分の2という長い年月を京都で過ごしましたが、彼女の人生の軌跡が現在の京都と福島を結ぶ多くの絆をうみだしてくれました。この絆は、先人から贈られた復興への道標となるでしょう。

湯田 祥子

若松城天守閣郷土博物館学芸員

資料業務

1. 資料整理

社史資料センター網別蔵書冊数(逐次刊行物は除く)

(2012年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	50	205	36	82	3	35	24	106	1,577	2,119	19.6%
1 哲学	15	8	172	32	25	148	44	20	81	1,401	1,946	18.0%
2 歴史	34	1,050	104	39	0	32	0	0	931	206	2,396	22.1%
3 社会	125	154	146	140	9	12	154	1,901	14	24	2,679	24.8%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	58	237	2.2%
5 技術	10	12	53	8	7	4	5	4	10	14	127	1.2%
6 産業	12	23	1	0	0	2	4	24	10	3	79	0.7%
7 芸術	24	2	76	9	13	20	41	8	24	9	226	2.1%
8 言語	8	69	17	67	9	4	0	2	1	10	187	1.7%
9 文学	31	556	116	86	23	2	0	0	2	1	827	7.6%

※日本十進分類法による分類

総冊数 10,823冊

2. 資料提供(写真資料を中心に)

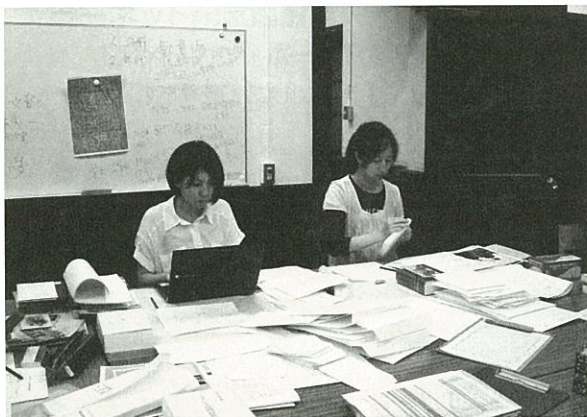
資料提供日

2011年

- 4月 6日 毎日新聞京都支局：毎日新聞朝刊 京都面掲載「京都ミュージアム案」に掲載／新島旧邸関連写真5点
 12日 歴史春秋出版株式会社：『会津人群像』19号に掲載／新島襄関連資料18点
 22日 福音社編集部：『月刊誌サインズ』7月号掲載「教育者 新島襄の使命感」に掲載／新島襄写真等4点
- 5月 9日 京都府京都文化博物館：総合展示室「京の歴史」で使用／クラーク記念館写真1点
 25日 朝日新聞出版：『週刊 新マンガ日本史』第39号「白虎隊」に掲載／新島八重写真1点
 30日 東京福岡県人会：『郷土の先達』(2008年3月号)再録にあたり写真の転用／海老名弾正の写真1点
 31日 いのちのことば社：『勝海舟 最期の告白』に掲載／勝海舟揮毫聖句(マタイの福音書11:28)1点
- 6月 3日 廣隆寺：「学徒出陣と大学歌」展にて使用／「同志社と戦争」写真等25点
 6日 福音社編集部：『月刊誌サインズ』「教育者新島襄の使命感(後編)」で掲載／新島襄関連写真等3点
 7日 いのちのことば社：DVD『聖書を読んだサムライたち パート2』で使用／新島襄関連写真等14点
 8日 上毛新聞社：『週刊風っ子』「ぐんまの偉人」で掲載／新島襄肖像画1点
 9日 NHK制作局：「スゴロQジャパン」で使用／「自責の杖」写真1点
 13日 川田甕江資料を読む会：『川田甕江資料集3』掲載／新島襄肖像画像2点
 同日 函館千歳教会：教会創立110周年記念に教会内展示で使用／新島襄肖像写真等2点

- 15日 神戸女学院大学K.C.Press:「K.C.Press」7月号「アメリカン・ボード設立200年記念 まかれた種—神戸女学院と同志社—」で掲載／宣教師の集合写真1点
- 20日 週刊現代編集部:『週刊現代』に掲載／新島遺品庫資料1点
- 7月 7日 南方熊楠顕彰館:第11回特別企画展「南方熊楠のアメリカ時代」で使用／小野英二郎写真
- 8月29日 きものパスポート事務局:『きものパスポート』掲載／新島旧邸書斎写真1点
- 9月 9日 芸術新聞社:『墨』213号に掲載／新島八重関係資料13点
- 10月11日 サンケイリビング新聞社:「京都御所、新島旧邸と京懐石を味わう」に掲載／新島旧邸写真2点
- 28日 NHK制作局生活食料番組部「あさいち」班:「八重の桜」紹介VTRで使用／新島八重写真1点
- 11月 8日 徳富蘇峰館:「広報山中湖」に掲載／「自責の杖」写真1点
- 15日 アルテスパブリッシング:Webサイト「音楽専門館」に掲載／新島襄関連資料1点
- 24日 雄山閣:『博物館学人物史 下巻』「田中不二麿」で掲載／田中不二麿肖像写真1点
- 2012年
- 1月10日 福岡警固教会:「福岡警固教会百年史」及び「福岡警固教会百年史・写真集」(仮称)に掲載／新島遺品庫資料データ2点
- 31日 佐賀市教育委員会川副出張所:佐野常民記念館企画展で使用／新島八重写真1点
- 2月29日 福島県立博物館:展示室のパネル及び広報用印刷物等に使用／新島襄・八重関係資料12点
- 3月 8日 ル・プロジェ:webサイト及び印刷物等に使用／榎村正直肖像写真1点
- 13日 有田屋:創業180周年記念事業「上州安中有田屋展」で使用／湯浅治郎関連画像3点

学芸員実習について（新島襄・八重旧蔵資料の整理など）



昨年に引き続き大学からの「学外実習」を受け入れた。計11名を3つのグループに分けて、8月の第1・2・4週に各グループ3回ずつ実施した。3グループとも「同志社社史資料の調査と整理」をテーマに、第12代同志社総長牧野虎次関係文書を整理した。

一方、女子大学の「館園実習」では2名の学生を受け入れた。本年度は講義と実習を行い、講義ではアーカイヴズの役割と使命、文書館と博物館と図書館、私立学校のアーカイヴズをテーマに討論も行った。一方、実習では新島襄・八重に関する未整理の写真資料を整理した。実習終了後も2名の実習生はセンターに通い、総数498点の写真資料の撮影、リストの整備を行った。

展 示

2011年度は2回のNeesima Room企画展(特別資料展示を含む)を実施し、オープンキャンパス2011、ホームカミングデー2011、新島会館、ラーネッド記念図書館への展示協力などを行った。

1. Neesima Room企画展

春学期(第39回企画展)

2011年4月1日(金)～7月31日(日)

テーマ:「アメリカン・ボード設立200年
記念 まかれた種
—神戸女学院と同志社—」

協賛: 学校法人神戸女学院

来訪者数: 延べ3,088名(特別展を含む)

実施日数: 114日(特別展を含む)



秋学期(第40回企画展)

2011年9月28日(水)～

2012年1月31日(火)

テーマ:「京都の中の同志社

—相国寺、朝廷と明治の近代化—」

共 催: 歴史資料館

来訪者数: 延べ4,050名

実施日数: 108日

2. 特別展

特別資料展示

2011年6月25日(土)～7月1日(金)

来訪者数: 延べ392名

実施日数: 7日

協賛: 神戸女学院

3. 展示協力

神戸女学院史料室への展示協力

神戸女学院史料室主催の展示「アメリカン・ボードと日本伝道」(2011年11月1日～2012年1月27日)に、写真パネルなど6点を提供。

オープンキャンパス2011

2011年7月31日(日)開催のオープンキャンパス2011で、社史資料調査員による展示説明会(3回、各30分程度)をNeesima Roomで実施。

ホームカミングデー2011

2011年11月6日(日)開催のホームカミングデー2011で、社史資料調査員による展示説明会(3回、各30分程度)をNeesima Roomで実施。



新島会館

「目的の大なる人物を一創設期の学生たち」(2011年4月1日～2012年5月7日予定)をテーマに、写真パネル11点を展示。

ラーネッド記念図書館

「アメリカン・ボード宣教師の肖像」(2011年11月1日～2012年2月29日)をテーマに、写真パネルなど11点を展示。

地域協力

2012年3月7日(水)、京都市立第三錦林小学校6年生の学外実習で社史資料調査員が尹東柱詩碑ならびに鄭芝溶詩碑を説明。





Neesima Room企画展のテーマに添った講演会を春学期と秋学期に実施した。

1. 春学期(第39回Neesima Room企画展)

演 題:「まかれた種—神戸女学院と同志社—」
講 師: 森 孝一(学校法人神戸女学院理事長・院長)
日 時: 2011年6月25日(土)
場 所: クラーク記念館2階クラーク・チャペル
参加者: 230名

2. 秋学期(第40回Neesima Room企画展)

テーマ:「京都の中の同志社—相国寺、朝廷と明治の近代化—」
講 師: 露口 卓也(文学部教授)
鋤柄 俊夫(文化情報学部教授)
浜中 邦弘(歴史資料館准教授)
小枝 弘和(同志社社史資料センター社史資料調査員)
日 時: 2011年12月17日(土)
場 所: 明德館1番教室
参加者: 237名

研究活動

機関誌の刊行や第一部門研究(新島研究)および第二部門研究(同志社社史研究)の研究会は次のとおりである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 本井 康博)

第113回例会	2011年4月10日(月) 『新島研究』102号論評会 報告者: 森永 長壹郎、柿本 真代、籠谷 次郎
第114回例会	2011年5月9日(月) 「同志社英学校と森永西洋菓子製造所」 報告者: 森永 長壹郎
第115回例会	2011年6月13日(月) 「新島ウオーク 大阪(川口)から奈良、宇治、坂本、比叡山越え、 京都三条へ(1875年)」 報告者: 田島 繁
第116回例会	2011年7月11日(月) 「小枝弘和著『William Smith Clark の教育思想の研究』をめぐって」 報告者: 小枝 弘和 書評者: 西田 毅
第117回例会	2011年8月6日(土) ①「英文による新島研究の必要性について」 報告者: 大越 哲仁 ②「新島襄が初めて読んだ漢訳聖書抜粋『真理易知』について」 報告者: 布施田 哲也 ③「新島襄の大学観と同志社大学」 報告者: 大迫 章史 シンポジウム「森中章光先生の功績」 ④「『時危うくして、偉人を思う』—徳富蘇峰と森中章光先生」 報告者: 吉田 曠二 ⑤「森中章光先生を語る」 報告者: 井上 勝也 ⑥「『新島襄全集』と森中さん」 報告者: 北垣 宗治
第118回例会	2011年10月17日(月) 「McGuffey Readers と L.L.Janes」 報告者: 日比 恵子

第119回例会	2011年11月14日(月) 「新島八重の雑誌記事総覧」 報告者：山梨 淳
第120回例会	2011年12月12日(月) 「文明の認識－福沢諭吉と新島襄－」 報告者：露口 卓也
第121回例会	2012年1月16日(月) 「熊本バンドの神学的特色」 報告者：矢崎 邦彦

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第103号 A5判 256頁 2012年2月28日発行

論 叢	山本覚馬と新島襄Ⅱ 同志社英学校と森永西洋菓子製造所 －創始者たちの帰国より死に至るまで－ 新島襄が初めて読んだ漢訳聖書抜粋 『真理易知』について 新島 襄における救済論 新島襄の母とみとその生地 関口徹氏「新島襄の母とみと浦和宿の中田家 －籠谷次郎氏の所説にふれて－」を読んで	井上 勝也 森永長壹郎 布施田哲也 大越 哲仁 関口 徹 籠谷 次郎
シンポジウム「森中章光先生の功績」	「時危うくして、偉人を思う」徳富蘇峰と森中章光先生 森中章光先生を語る 『新島襄全集』と森中さん 「森中章光先生の功績」討論と質疑	吉田 曠二 井上 勝也 北垣 宗治
エッセイ	新島襄の足跡を辿る「新島ウオーク：大阪・奈良・京都」 －大阪川口から奈良、宇治、坂本、比叡山を越え京都三条へ(1875年)－	田島 繁
コラム	新島襄のヴィースバーデンでの湯治場Kurhotel Römerbad (クアホテル・ローマ浴場)の新聞記事を発見 「新島襄の遺髪と愛用の硯」について 日記「函館紀行」元治元年四月十一日に関した森中章光メモ	田島 繁 田島 繁 吉田 曠二
資料紹介	新島八重のブラック・ホール－前夫・川崎尚之助のその後－ 新島八重の雑誌記事集成	吉海 直人 山梨 淳

3. 第2部門研究（同志社社史研究）研究会（代表 伊藤彌彦）

第10回例会	2011年5月31日(火) 「同志社女学校への来校者—明治・大正期—」 報告者：宮澤 正典
第11回例会	2011年7月2日(土) 「徳富蘇峰とアメリカ」 報告者：澤田 次郎
第12回例会	2011年12月14日(水) 「戦時下の学問統制と同志社」 報告者：駒込 武
第13回例会	2012年1月17日(火) 「大塚節治関係書簡からみる上申書問題」 報告者：布施 智子

4. 機関誌

『同志社談叢』第32号 A5判 304頁 2012年3月1日発行

論 叢	増野悦興の教育活動—新島襄の遺志の体現—	滝澤 民夫
資料紹介	組合教会三元老の書幅（新収蔵品）	本井 康博
	新出・新島襄書簡五通（柚木吉郎宛）	本井 康博
	「蘇仙庵文庫」所収 松方正義宛 徳富蘇峰書翰	齋藤 洋子
	同志社女学校への来校者—明治～大正期—	宮澤 正典
	J.D.デイヴィスとN.G.クラークの往復書簡（9）	森永長壹郎
公開講演会	同志社と神戸女学院	森 孝一
	—アメリカン・ボードとの関係をめぐって—	
	公経と義満	鋤柄 俊夫
	公家社会と京都	浜中 邦弘
	京都の近代化と同志社	小枝 弘和

5. 刊行物

パンフレット『新島旧邸』増刷

日本語・英語併記（2011年6月発行）

第169回 新島襄生誕記念会

日時：2012年2月13日(月) 17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞 布施田 哲也(公立丹南病院 副病院長)
新島研究功績賞 大鉢 忠(同志社大学理工学部 教授)



記念講演

演題：新島襄：小冊子との出会いと持病について－(真理易知とリウマチズム)
講師：布施田 哲也(公立丹南病院 副病院長)

新島襄生誕記念懸賞論文入選者(2011年度)

【中学校の部】

最優秀賞 奥村 美大(同志社女子中学校1年)
「同志社と慶應義塾－新島襄と福沢諭吉の教育観の比較－」
優秀賞 小西 花依(同志社女子中学校1年)
「人と人とのつながり」
村山 由(同志社女子中学校1年)
「栄光館のパイプオルガン－デントン先生からの贈り物－」
佳作 辰巳 由夏(同志社中学校1年)
「新島襄とロビンソン・クルーソーの出会い」
川嶋 涉造(同志社中学校1年)
「新島襄と吉田松陰」
辻 美織(同志社女子中学校1年)
「新島襄からの手紙」
西田 芽生(同志社女子中学校1年)
「ハーディーとの出会い」
木寺 梓(同志社香里中学校1年)
「新島襄先生を動かしたその原動力」
川田 真里亜(新島学園中学校3年)
「決意の固さの奇跡」

【高等学校の部】

最優秀賞 生嶋 眞帆(同志社国際高等学校3年)
「管見からみる山本覚馬と同志社」
優秀賞 土井 花梨(同志社国際高等学校3年)
「日本のマザー・テレサ－人生の暗転と同志社－」
吉村 沙矢香(同志社国際高等学校3年)
「新島襄の考える神の愛」
佳作 山根 久美子(同志社高等学校1年)
「新島襄 × 京都＝キリスト教と自由とそして同志社」
太田 未来(同志社国際高等学校3年)
「新島襄の大学設立への熱い思い」
小林 直樹(新島学園高等学校3年)
「新島襄から学ぶ、これからの日本人に必要なこと」
丹野 智世(新島学園高等学校3年)
「新島襄がもたらした私たち学生への海外への道
－今の日本の学生の国内安定志向に告ぐ－」

新島旧邸

ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって建てられた新島襄の私邸で、和洋折衷の木造2階建て住宅として、また、同志社創立者の旧居として価値が高く、1985年に家具・調度類を含めて京都市有形文化財に指定された。

■公開日

3月～7月、9月～11月の毎週水・土・日曜日(ただし祝日は除く)

春と秋の京都御所一般公開期間中の毎日および11月29日(同志社創立記念日)

■公開時間

10:00～16:00

〈2011年度見学者数〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	3月	合計
771人	770人	449人	475人	603人	976人	1,928人	885人	6,857人



新島旧邸外観



書斎



応接間



寺町通に面した木戸から玄関への小道

委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2011年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
土田 道夫	教務部長	菊地 登	中学校・高等学校教諭
片山 傳生	企画部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
吉岡 康博	総務部長	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
落合 仁司	人文科学研究所長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
中井 義明	歴史資料館長	本井 康博	神学部教授
山本 修	法人事務部長(～2011.10)	出原 政雄	法学部教授
吉岡 康博	法人事務部長(2011.11～)		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2011年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	出原 政雄	法学部教授
落合 仁司	人文科学研究所長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
山本 修	法人事務部長(～2011.10)	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
吉岡 康博	法人事務部長(2011.11～)	伊藤 彌彦	法学部教授
本井 康博	神学部教授	竹山 幸男	中学校・高等学校副校長

事務室	所長	露口 卓也
	参与(部長待遇)	亀井 修二
	事務長	落合万里子
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	契約職員	石井理佳子
	アルバイト	3名

新島旧邸	アルバイト	3名 (5名で交代勤務)
Neesima Room	院生アルバイト	1名 (8名で交代勤務)

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年2月18日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) Neesima Room の管理運営に関すること。
- (6) ハリス理化学学校記念展示室の管理運営に関すること。
- (7) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (9) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (10) その他センター設置の目的に照らして必要と認められる事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、総務部長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、から各1名

(4) 学識経験者若干名

- 2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。
- 5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、第3条に掲げる事項について計画立案し、センター委員会の議を経てその実施にあたる。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
 - 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て大学評議会で行う。

附 則

この規程は、2010年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改訂

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に則り、同志社社史資料センター(以下「センター」という)が所蔵する資料等(以下「資料等」という)の利用に関する必要事項を定める。

(センターの業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に則る。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長(以下「所長」という)が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

- 2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム(DOORS)に登録された図書とし、禁帯出図書と逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
 - ア) 同志社大学学生・教職員
 - イ) 同志社女子大学学生・教職員
 - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
 - エ) センターが設置する部門研究の参加者
 - オ) その他、所長が特に認めたもの
- 3 貸出冊数は5冊までとし、貸出期間は1ヶ月とする。
- 4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会の議を経て行う。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第8号

発行日 2012年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/archives/>

表紙写真：新島夫妻ならびに山本覚馬と会津出身の学生たち(1886年か1887年)
今泉真幸旧蔵写真。覚馬と八重の旧主である松平容保の嫡子・容大(かたはる、
後列右から2番目)の姿もある。容大は同志社に一時在学した。